

2017年度 学校自己評価シート (浦和実業学園中学校・中高一貫部)

目指す学校像	「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

重点項目	<p>1) クラス活動や行事を通じて、豊かな人間性と学校での好ましい人間関係づくりを推進する。(徳育)</p> <p>2) 実学教育の実践として行われている特色ある教育活動を通じて異文化理解を深め、学ぶ意欲を養う。(英語イマージョン教育の推進)</p> <p>3) きめ細かな学習指導により、基礎学力の定着と実践的学力の伸長を図る。(学力の向上)</p> <p>4) 6年間を見据えたキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。(進学実績の向上)</p> <p>5) 一貫部全教職員で生徒募集活動に積極的に取り組む。(募集定員の確保と受験者数の増加)</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者 懇話会委員 4名 学校関係者 5名

学 校 自 己 評 価			2017年度評価		
年 度	目 標	2017年度評価	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
番 号	現 状 と 課 題	具 体 的 方 策			
1	<p>○すべての教科・学習活動を通じて、グループワークとプレゼンテーションの技術向上を心掛けているが、それに伴う機器が未整備である。</p> <p>○生徒の目標達成力や忍耐力を養う行事、または一貫全体としての団結力等を養う行事が少ない。</p> <p>○「オアシス精神」の定着、特に挨拶運動については、その時だけイベント化してしまい、時と共に意欲が低下する生徒も散見される。</p> <p>○部活動については、生徒在籍数の減少により、集団競技の部活動運営が難しい。</p>	<p>○グループワーク⇒プレゼンテーションのスキルアップのために、全学習活動を通じて引き続き実施していく必要がある。また、それを効果的に行うために必要な機器を各教室に整備する。</p> <p>○目標達成力や忍耐力を養う行事として強歩大会の導入を、一貫部全体に関わる行事として合唱祭を企画する。</p> <p>○「オアシス精神」の定着のため、生徒が普段から普通に実行できるよう、今年も生徒会を中心に主体的な行動を促す。</p> <p>○部活動については、引き続き全員加入を目指す、円滑な運営を目指して部活動と補習の整理を行う。</p> <p>○いじめ・体罰アンケートや災害時の行動を考えさせる等の防災教育は、今年も実施する。</p>	<p>○中学の全ホームルーム教室にプロジェクトを設置したことで、映像教材での生徒の興味喚起や授業の効率化が図られ、グループディスカッションの時間が容易に確保された。</p> <p>○忍耐力を養う新しい行事として12月15日に浮間舟渡～彩湖グラウンド間(10km)で実施した強歩大会は、防災教育の観点からも有意義なものとなった。</p> <p>○5月に生徒会主導で挨拶運動を実施し、オアシス運動の推進に寄与した。</p> <p>○中学ではほぼ全員が部活動に加入している。中には運動部と文化部の掛け持ちをしている生徒もいた。</p> <p>○いじめに関するアンケートは6月・12月、体罰に関するアンケートは9月・2月の年2回行い、実態把握と個々案件への対応を行った。</p>	A	<p>○中学におけるALでのグループワークを取り入れた授業を高校でも継続させるため、4号館の一貫部4～6年の教室にもプロジェクトを設置する。</p> <p>○防災教育の充実を図るために、強歩大会以外の行事も企画していく。</p> <p>○オアシス精神の定着を図るため、挨拶運動などを継続して実施する。</p> <p>○部活動への加入率向上を図る。</p> <p>○薬物乱用・いじめ・体罰などに関するアンケートを定期的実施する。</p>
2	<p>○英語イマージョン教育を通じて「話す力」に代表される表現力の育成に努めているが、すべての生徒が満足できる技量にまで達しているわけではない。</p> <p>○実技科目においてネイティブ教員と接触できる機会が、中学校の3年間で終わってしまっている。4年3学期のハワイ短期留学まで継続させることができないのかという声が多い。</p> <p>○「英語漬け」の生活にふさわしい企画をもっと増やしていきたい。</p>	<p>○学校生活全般において生徒が自発的に英語を話す機会を増やし、普段の生活の中で4技能が向上していくよう努力を継続する。また、昨年度から始めた、生徒による朝の英語による校内放送を充実させる。</p> <p>○4年まで実技科目にネイティブ教員を配置し、生の英語に触れる機会をハワイ短期留学まで継続できるように試みる。</p>	<p>○教室へのプロジェクト設置により、英語・英会話の授業で聴く・読む・書く・発音するの4技能習得に効果を発揮した。また、生徒による朝の英語校内放送も少しずつ工夫を凝らして昨年に引き続き取り組んだ。</p> <p>○英語イマージョン教育の推進のため、4年生の実技科目にもネイティブ教員を配置し、英語に接する機会が増えた。</p>	A	<p>○平素から「話す力」の向上を意識し、ネイティブ教員との1対1の会話の頻度が高まるような指導を実施する。</p> <p>○4年生の実技科目において、イマージョン教育のより大きな効果を得るためにネイティブ教員の役割を明確にする。</p> <p>○3週間のハワイ短期留学を成功させるため、早期より意識付けと自立心を養う指導を行うことが肝要である。</p>
3	<p>○2020年問題に対応できる思考力・表現力を養うために各学年ごとに課題を設定して実施しているが、6年間を通したカリキュラムの設定や教材の選定が必要である。</p> <p>○AL・ICTに関する技術向上のための研修を全教員に拡げていくことが望ましい。</p> <p>○生徒が主体的に学ぶきっかけ作りに有効なチューター制度が昨年度は実施されなかった。</p>	<p>○4技能を養う朝トレーニングを定着させる。中学3年、一貫5年では、発想力・企画力を養うAL教材である「エナジート」を導入し、それぞれ2年間で4巻の課題を終わらせる。</p> <p>○継続的に教員研修会に積極的に参加し、その内容を教員間で共有して授業にフィードバックしていく。</p> <p>○学力向上委員会の討議を継続し、効果的な補習内容の組み立てに取り組む。</p> <p>○チューター制度を復活させ、継続させる。</p>	<p>○AL教材「エナジート」は、中学2年は昨年に続き利用、中学3年・一貫5年が今年度から利用し成果を上げた。</p> <p>○教員研修については、埼玉大学附属中学・筑波大学附属中学の授業研究・研究協議会にのべ4名が参加し、AL等新しい教科教授法を学んだ。また、8月18日・21日に全教員参加で夏季教員研修を実施し、ALの第一人者である大西久雄氏、2020年高大接続改革の識者石川一郎氏より講演をいただいた。</p>	B	<p>○新学習指導要領に則り、思考力、判断力、表現力を身につけさせる教育活動の実践のため、教員研修を充実させる。</p> <p>○平成31年度からの道徳の特別教科化に向け、生徒間の議論を通じて多角的な思考力を身につけさせる授業の実践を研究する。</p>
4	<p>○「キャリアステップ24」の内容を充実させていかなければならない。</p> <p>○在校生の保護者をキャリア教育のための講師として招くことが昨年度はできなかった。</p> <p>○7期生の大学合格実績は伸びているものの、国公立大学合格数は10名にとどまった。</p>	<p>○職業体験の機会が増えたので、これは継続していく。</p> <p>○外部講師の講演の回数も増やしていく。特に、保護者の協力を得ての講演会を実施する。</p> <p>○スタディアプリの活用により学力向上に努めるとともに、8期生の進路実績を上げるため、学年を越えて進路検討を行う機会を作る。</p>	<p>○中学2年の職業体験は、「あんといすくーる」を11月10日に、飯田スアーでの実習を11月9日・16日・17日に実施した。生徒は積極的に取り組んでいた。</p> <p>○進路実績向上のため、各種補習を実施し、スタディアプリの活用を促してきたが、まだまだ個人差がある。また、学年を越えての進路検討会を11月22日に実施し、6年生個々の志望校の検討を行った。</p>	B	<p>○正しい職業観を養うため社会見学、職業体験等を今後も実施し内容の充実を図る。</p> <p>○専門的な知識を持った外部講師による講演会を数多く企画し、生徒が本物に触れる機会を確保する。</p> <p>○8期生は私立大学定員確保の影響もあり実績が上がらなかった。さらなる進学実績向上に努める。</p>
5	<p>○ここ数年、学校説明会の参加者数は減少していて、前年比80%になっていて、受験者数は、昨年度入試に比べて今年度入試では約150人減少しているが、入学率は4.9%と1.2ポイント増加しているため、入学者が9名増えた。</p> <p>○適性検査型入試の実施日程が、埼玉県内公立一貫校の受験日の翌日になっていて、埼玉公立受験生を取り込めなかった。</p> <p>○願書の書店販売がなくなり、首都圏の広範囲に亘る受験生に対して願書郵送により対応しているが、受験生にとって願書入手から出願まで、手間と時間がかかることが問題である。</p>	<p>○地元の児童が参加しやすい企画として「英語であそぼう」や「夏休み体験講座」などを実施し、学校説明会への誘導を図る。</p> <p>○適性検査型入試については、埼玉県内の公立一貫校志願者にも受験し安い入試日を検討する。</p> <p>○願書のweb出願を検討し、首都圏の広範囲にわたる受験生の確保につなげる。</p>	<p>○小学生を対象とした「英語であそぼう」、「算数講座」は、盛況で、参加者の満足度は高く、これを機に本校受験を考える生徒も少なからず出てきた。また、英語入試の導入により、12名の受験、10名の入学があった。</p> <p>○適性検査型入試を2回に増やしたため、約400名の出願、10名の入学があった。</p> <p>○web出願の導入により、願書の取り寄せが不要になり、受験生の利便を図れた。</p>	A	<p>○募集活動に大きく関係する「英語であそぼう」「算数講座」は今後も継続する。</p> <p>○適性検査型入試・英語入試が入学生数の増加につながったことから、さいたま市立大宮国際中等教育学校の開校を鑑み、これらの入試の充実を図る。</p> <p>○学校説明会の予約からweb出願・入学手続きまで一連の作業が同じシステムで実施できる強みを生かし、説明会参加者を出願にまで繋げていきたい。</p>

学校関係者評価
実施日2018年6月16日
意見・要望・評価など
<p><授業・ICT></p> <ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンやタブレットなどのICT機器の操作方法などについては保護者はよく理解できない面もあるので、使い方については学校主体でお願いしたい。 ●一貫部4年でも中学から引き続きイマージョン教育が実施され、効果が期待できる。5・6年でも実施されることが理想的。 ●4号館の中学校教室にプロジェクターが設置されたことは喜ばしい。一貫部高校の教室にも設置されることを望む。 →2018年設置予定。 ●体育着を現行の素材から中学校の体育着と同じ材質(ドライタイプ)に変更するのは構わない。 <p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ●文化祭の様子で、一部の女子生徒の化粧が気になった。子どもからは生徒によって教員の厳しさが異なる、という声があがっている。 ●ハワイ短期留学は帰国した子どもからの話では本当に楽しい行事だったようだ。保護者としては、是非現地での写真をface bookなどのSNSを使って、定期的に発信してほしい。 →既にHPでは毎日更新中。 ●上野松坂屋での商業実習は自分たちの頃も多くのことを学べる良い機会だったことを覚えている。今後続けてほしい。 <p><部活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動部のユニフォームをスクールカラーで統一した方がアピール効果があるのではないかと。 ●部活動加入率のアップは生徒指導にもリンクしていると思う。運動部であれば校名の入ったユニフォームを着ることで学校の看板を背負っているという意識が生まれる。一人でも多くの生徒に部活動に入る指導をしてほしい。 <p><進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ●他の高校に比べ浦実の先生方が生徒本人任せにせず、きめ細かく指導して下さることで安定した実績を残していることは評判になっている。推薦・AOで早期に進路が決まった生徒への学習フォローとあわせて今後も面倒見のいい浦実であってほしい。 <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ●遅刻、近隣からの苦情を減らすべく、大変かと思うが引き続き指導ください。 <p><生徒募集></p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学校の適性検査型入試や英語入試が入学者増につながったということで先生方の研究・努力を評価したい。小学校での英語は必修化されたので、英語イマージョンを積極的にPRして生徒募集につなげてほしい。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ●中庭の屋根付き通路のつつじの植栽が曲がってしまっているため、柵のようなもので保護してはどうか。 →柵の役割も果たす腰掛けを設置予定。